

「富山県成長戦略会議ワーキンググループ最終報告書」

～まちづくり戦略ワーキンググループ部分の抜粋～

全体の考え方

令和4年度は、官と民との共創による富山県らしい未来志向のまちづくり・地域づくりに向けて、まずは①県及び15市町村一体による県内外に開かれた実行体制・仕組みづくりを始動させ、職員向けの実践的な教育についても一層推進する。

さらに、②知事をはじめとして職員が自ら率先して現場に入っていく、対話・共感の積み重ねや社会関係資本（信頼関係、繋がり）の蓄積を通じて、優先して取り組むべき社会課題や地域課題の解像度を高めるとともに、県民や地域事業者等が主導する先進事例・モデル事業を重点的に支援することとする。

実施すべき施策概要案

（1）居心地がよく個性的な市街地・田園地域づくり

- ・ 富山らしい個性的なまちづくり、地域づくりに向けて、地域の自主的な取組みを集中的に支援する。
- ・ AIやICTなど新しい技術やサービスを活用し、地域交通などの課題解決や地域振興に向けた実証実験や取組みを支援する。
- ・ サテライトオフィスの誘致やワーケーションの推進に向けて、情報発信や企業ニーズと候補地のマッチングを強化するとともに、市町村の取組みを支援する。
- ・ ワケーションオフィスなどへの空き家の利活用の取組みに支援する。
- ・ 本県の美しい景観を活かし、人と自然が共存できる持続可能で空間価値の高い田園地域の創出に取り組む。

（2）官民連携によるまちづくりや社会課題解決の推進

- ・ 行政が県民や事業者と連携しやすいよう、ボトムアップな官民連携に向けた体制を整備する。
- ・ 官民連携の推進に向けて、職員のスキル・ノウハウを向上させるとともに、県、市町村、民間企業とのネットワークを構築する。
- ・ 社会課題の解決を目指し、PFIやPFS（成果連動型民間委託）などの手法を活用した官民連携のモデル事業の創出を図る。

継続的な検討課題

自然風土と開かれた文化的環境を組み合わせたウェルビーイングなまちづくり・地域づくりを富山県発で生み出すべく、県が市町村や民間と連携して中長期的な重要課題にも積極的に取り組む（その際トライ&学び、やり抜く姿勢、外部との共創、柔軟な官民連携等の価値観を重視する）。

具体的には、

- インフラの維持管理が困難な中山間地域での価値の高い“開疎”な空間づくり
- デマンド交通や将来的には自動運転等を活用した新たな公共交通の体系づくり
- 官と民を繋ぐ公益性のある中間支援組織（官民連携のシンクタンク）の設立
- まちづくりの次世代を担うプレーヤー（若者、社会起業家等）の育成支援
- 「ウーブンシティ」の全国二番目（日本海側初）の実証実験誘致

については、在り方に関する集中的な議論を含めて、今後も継続的に検討を行うこととする。